

沿革

昭和50年(1975年)3月31日 日本児童演劇劇団協議会。53劇団で発足。
 昭和63年(1988年)5月22日 日本児童・青少年演劇劇団協議会と改称。79劇団加盟。
 平成13年(2001年)8月10日 協同組合法人格取得。代表理事に大野幸則就任。
 日本児童・青少年演劇劇団協同組合に改称。
 平成27年(2015年)6月 現在63劇団加盟。

組織

役員
 代表理事 大野幸則
 副代表理事 太田 昭
 専務理事 長谷詔夫
 理事 新井浩介 飯屋祐一 高坂諭 古賀恵子 鈴木徹
 鳴海輝雅 ふじたあさや 山根起己 吉田明子
 監事 高垣信子 半谷邦雄

加入資格
 児童・青少年演劇を対象とした舞台作品の創造制作及び普及をおこなう事業者であること。諾否は理事会において決する。

団体の構成
 北日本支部1劇団、首都圏支部45劇団、東海・北陸支部6劇団
 関西支部7劇団、九州・沖縄支部4劇団

目的

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の創造的、自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的、社会的地位の向上を図ることを目的とする。

関係団体

主務官庁 経済産業省
関係省庁 文部科学省 文化庁 厚生労働省
関係団体 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
 公益社団法人日本児童青少年演劇協会
 特定非営利活動法人日本青少年音楽芸能協会
 一般社団法人全国専門人形劇団協議会
 全国児童・青少年演劇協議会
 アシテジ(国際児童青少年舞台芸術協会)日本センター
 特定非営利活動法人日本ウニマ(国際人形劇連盟日本センター)
 芸術文化振興連絡会(PAN)
 子どもと舞台芸術推進会議 子ども劇場企画実行委員会
 子ども劇場企画創造団体実行委員会 日本演劇教育連盟
 全国公立小学校児童文化研究会 東京都小学校児童文化研究会
 日本児童青少年舞台芸術団体協議会
 子どものための舞台芸術創造団体の会(東日本大震災子ども舞台芸術支援室)
 他



事業内容

- 共同公演事業** 小・中・高等学校で実施している演劇鑑賞教室の推進
 全国の子ども劇場例会・鑑賞活動との共同
 国の文化支援・支援事業の振興
 自治体の文化振興事業との提携・協力
 幼稚園・保育園など園児の鑑賞体験の推進
- 演劇祭・フェスティバル** 主催事業 「夏休み児童・青少年演劇フェスティバル」
 共同事業 東京都「参加・体験・感動！ふれあいこどもまつり」
 「子どもと舞台芸術・出会いのフォーラム」
 芸能花伝舎「芸術体験ひろば」
 各地で開催される児童演劇フェスティバルや人形劇フェスティバルへの協力
- 人材育成・表現教育活動** 文化庁委託事業「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業
 ～次代の児童・青少年演劇人育成連続講座～」の実施
 児童青少年演劇人のフォローアップ
 各種講座、ワークショップ、シンポジウムの開催
 学校で開催される表現教育への人材派遣
 演劇人による演劇人のための「批評対話」の実施
- 国際交流** アシテジ活動の推進
 国際フェスティバルの開催や協力
 海外演劇人との交流
- 出版** 季刊誌 児童・青少年演劇ジャーナル「げき」(晩成書房)
 児童演劇界を代表する劇作家、演出家、演劇評論家、研究者や現場で活躍する劇団員などで編集するジャーナル誌
 単行本「証言・児童演劇～子どもと走ったおとなたちの歴史～」(晩成書房)
 戦前から現在まで、児童演劇を拓いてきた演劇人や劇団関係者55人による証言集



事業実績

- 昭和48年(1973年)より現在まで、「夏休み児童・青少年演劇フェスティバル」43回の開催を重ねる。
 第38回まで東京都児童会館共催、第40回より全労済共催。2002年度(平成14年度)より芸術文化振興基金の助成を受ける。
- 平成4年より東京都墨田区教育委員会との共催による「墨田区公立小学校巡回公演」の継続的な実施。
- 東京都共催事業「参加・体験・感動ふれあいこどもまつり」2004年(平成16年)より現在まで開催。
 当協同組合は主幹団体として実行委員会に加わる。
- 文化庁「芸術団体人材育成支援事業」平成17年度～平成22年度の採択団体となる。
- 文化庁「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」平成23年度～平成27年度の採択となる。
- 「子どもと舞台芸術 出会いのフォーラム」10団体で構成する実行委員会に加入、開催に協力。
- 平成24年、震災後の児童青少年演劇を考える児演協同公演「空の村号」を立ち上げる。